

特定非営利活動法人

Alternative People's Linkage in Asia

APLA

2012 年度事業報告

これまで APLA が活動のテーマにしてきた「農と食」に加えて、「エネルギー」の自給についても模索してきた 2012 年度。急速に進行するグローバル化により、小規模な生産や暮らしの基盤が揺らぎつつある今、「農を軸にした地域づくり」を念頭に活動に取り組んできました。

フィリピン、東ティモールのパートナーたちとは、将来の地域のリーダー候補者たちの養成をすすめ、技術・知識の獲得の実践的な農業に加えて、今の時代を生きていくうえで大切にしたい価値観などを学ぶ機会もつくってきました。手探りではありましたが、福島と日本で暮らす私たちとのつながりを構築し、またアジアともつながり試みとして、まずはネグロスと福島の農民交流を実現することができました。まさに APLA のめざす学び合いのための場づくりです。それぞれの地域で抱える問題は様々ですが、何をめざし、どう進んでいきたいのか、お互いの共通点や違いを見出し、そのうえで励まし合える関係性を創りだす第一歩を踏みしました。

日本の社会状況も影響し、近年 APLA の活動基盤が弱体化してきました。2012 年度は財政的基盤を強化するため、特に民衆交易・フェアトレード事業に力を入れてきました。それによって、民衆交易の試みを新たに知る人たちとも出会い、APLA の活動や民衆交易の伝え方・打ち出し方を改めて見直し、考える一年となりました。

海外プロジェクト支援事業

フィリピン・ネグロス島

カネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) とバランゴンバナナ生産者の連携が始まりました

2009年から動き出したカネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) の農場設備が整い、循環型農業が具現化されはじめました。第4期研修生として、バランゴンバナナの生産者の子どもたちを迎えることができました。

- 2012年7月に、KF-RC、オルター・トレード社 (ATC/注1) と (株) オルター・トレード・ジャパン (ATJ)、APLA の四者会議が実施され、バランゴンバナナ生産地域の自立への取り組みや地域づくりに関して協働する方向性を確認しました。これを受けて2012年9月には、西ネグロス州、東ネグロス州よりそれぞれ3つのバナナの生産者協会がKF-RCを訪問し、循環型農業について実践を学びました。その後、西州の生産者協会を中心に、今後の具体的な地域づくりに関する話し合いの場が持たれ、パンダノンとカンルソンという2つの産地から、3名の若者がKF-RCの研修生として参加しました。彼らが研修を卒業した際には、養豚を中心とした循環型農業が実践されていく予定です。
- KF-RCの農場部門は、APLAからの財政支援を受ける最後の年であったため、養豚事業を中心とした生産物の販売を強化してきました。しかし、4～5月、現地で卒業式やフィエスタ (祭り) が開催され、豚がよく売れる時期に合わせて子豚の生産ができなかったため、販売チャンスを逃してしまいました。こうした失敗も踏まえて、年間を通じた豚の生産計画を立て直し、次年度の販売に向けて準備を開始しています。一方で、子豚が生まれた時にはすぐに買い手がつき豚の数が足りない状況や、KF-RC農場の入り口にあるバグサカン (直売所) での販売や、近隣の住民が農場に直接野菜を買い付けに来るなど、KF-RCの地元での認知度は上がってきています。
- 2012年度もKF-RCには様々な人たちの訪問がありました。地元からはバコロド市のスラム街バナゴの若者たちが農場体験に来ました。日本からもグリーンコープ青少年ツアーでの農場体験に始まり、日本大学や名古屋学院大学の大学生たち、BMW技術協会のツアーでも農場訪問がありました。
- BMW技術協会の協力により、KF-RCに設置されているバイオガスタンクにたまるメタンガスを利用した発電に取り組み、約180Wの発電に成功しました。現在、セミナーハウスや研修生・スタッフの家、豚舎の電気がこれで賄えるようになっています。
- 2012年4月には北部ルソンよりCORDEV (農村のための協同組合) のメンバー3名がKF-RCを訪れ、BMW技術の活用方法について視察しました。視察には、北部ルソンに2台目のBMWプラントを設置することになったギルパート・クミラさんも参加し、具体的なイメージを持つことができました。その後のギルパート農場でのBMWプラント設置には、KF-RCも協力をしました。

注1/ATC：ネグロス島でマスコバド糖とバランゴンバナナの生産管理、輸出、生産者サポートを実施する事業体



KF-RCの研修生たち (第3期生、第4期生)



バナナ生産者たちがKF-RCを訪問

北部ルソン

新たな地域で BMW 技術を通じた循環型農業の試みが始まりました

APLA のパートナーである CORDEV は、有機堆肥を製造・販売し、地域内の有機農業の普及を図る計画でしたが、行政への堆肥登録などが進まない状況が続きました。一方、BMW 技術（注2）を活用した栽培実験は、地域での実践者を増やすため、柑橘生産者のところにも新しくプラントを設置することにし、具体的な取り組みが始まりました。

- APLA で支援した有機堆肥の製造ですが、一昨年より課題であった行政への登録に加えて、有機認証の手続きを踏まない限り「有機堆肥」として販売できないことになり、引き続き登録作業が難航しました。残念ながら、堆肥の原料が有機栽培されていたことが証明できない限り認証が下りないと判明し、有機認証の取得は断念しました。また、契約期間内にも関わらず、これまで堆肥製造を行い、BMW プラントも設置されていたテクノセンターからの立ち退きを要請されたため、引っ越し作業が発生しました。テクノセンターは、イザベラ州カウヤン市の中心にほど近い場所にありましたが、約 30 分ほど離れた空き地へと移動になり、敷地内の施設の建設作業を開始しています。これに伴い、堆肥製造も改めて仕切り直しをすることになりました。
- 北部ルソンでの BMW 技術の実践を深めるため、CORDEV の堆肥製造用の BMW プラント以外にも、農業を実践している場所に設置することが検討されていました。結果として、ヌエバピスカヤ州マラビン溪谷にあるギルパート農場が選ばれ、多種類の柑橘や南国果物を栽培するギルパート・クミラさんが生物活性水を活用した栽培実験を始めることになりました。2012 年 8 月に BMW プラントの設置が完成し、12 月からは柑橘への散布実験が開始されています。

注2/BMW 技術：バクテリア（微生物）・ミネラル（造岩鉱物）・ウォーター（水）の略。バクテリアとミネラルの動きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術のこと。



ギルパート農場に設置されたBMWプラント



生物活性水を活用して実験をしている柑橘畑

東ティモール

2 年間の取組みを振り返り、地域の中での人材育成、コーヒー生産者たちの協働への取り組みの一步を踏み出しました

- 2012 年度は、2010 年度から APLA とともにコーヒーだけに頼らない地域づくりに向けて、魚の養殖や豚の飼育、自給作物栽培のための土づくり、女性グループの活動など、色々な挑戦をしてきた 2 つのコーヒー生産者グループ、Fitun Caetano（フィットウン・カイトノ）と GATAMIR（ガタミル）で 2 年間の活動の振り返りを実施しました。乾季の農業用水の不足、魚のエサの改良が必要であること、コーヒー収穫期の忙しさで女性グループの活動が停滞してしまうことなど、解決していかないといけない課題はまだ山積みであるものの、「2 年前とは確実に何かが変わってきている、一つずつ実践を重ねてきている」という認識をメンバー全員で共有できたことは、2012 年度の大きな成果だといえます。

- そうした現状にあって、今後も地域で直面していただく諸問題を解決するためには、知識や技術を外部の人に頼り続けるのではなく、地域の中に人材が必要だ、という議論に発展。現地 NGO の協力のもと、2012 年 11 月より、青年を対象にした一年間の実地研修を開始しました。研修にかかる費用や生活費は、APLA が「奨学金」としてサポートし、上記 2 グループから 2 人ずつ、合計 4 人が研修生として選ばれ、地域から研修地に送り出されています。持続可能な農業に取り組んできた篤農家のお宅に泊り込み、朝から昼までは外で働きながら技術を習得し、午後は室内で記録つけや現場スタッフを交えた質疑の時間、という形で一年間研修を受けます。4 人は、2013 年末に自分たちの村に戻り、研修で得た経験・知識を還元すること、次世代の地域の指導者をめざすことが求められています。
- アジア生協協力基金の助成金を受け、これまでまとまってコーヒーを出荷するにとどまっていた「コーヒー生産者グループ」から、より自助性が高い「生産者組合」をめざす第一歩を踏み出すための活動が実施できました。具体的には、2013 年 2 月、長野県より小林史麿氏（産直市場グリーンファーム会長／元ワーカーズコープ全国理事）を派遣し、コーヒー産地の視察・交流ならびに「農民による自立的・安定的な地域づくりのための協同とは」と題したセミナーを開催。エルメラ県内のコーヒー生産者グループリーダー約 30 名が参加した。また、協同組合を管轄する商業産業環境省 (MCIA) からも担当副大臣および書記官らが参加しました。このセミナーにより、参加者たちが「協同」の可能性について学び、協同組合を組織・運営するための強力な意識づけの機会をつくることができました。今回実現したコーヒー農民への動機づけをどのようにして持続させ、さらに具体的な動きにつなげていくことができるか、という点が来年度の課題となります。



4 人の研修生たち。研修先のマヌファヒ県トゥリスカイにて。



コーヒー生産者グループのリーダーを対象に開催したセミナーの様子。

互恵のためのアジア民衆基金 (APF)

2012 年 10 月 28 日、互恵のためのアジア民衆基金 (APF) の第 3 期社員総会が福岡で開催され、APLA から参加しました。総会前には、今回の総会のホストを務めたグリーンコープのリサイクル事業、ホームレス支援の現場、保育園などをアジアのパートナーたちと一緒に訪問しました。

APLA がサポートしている北部ルソンのしいたけプロジェクトに関しては、プロジェクトの失敗が確認されました。総融資額 75 万ペソのうち 4 万ペソの返済が完了。残りのローンの返済に関しては、CORDEV 理事会より 3～5 年の返済猶予期間の設置の要望があり、総会でこれが了解されました。猶予期間内にどのような形で返済を開始できるか、現地との協議を APLA がサポートすることになりました。



日本に集まった海外ゲストたち

互恵のためのアジア民衆基金 (APF) とは…

APF は南の民衆と北の市民の連帯・交流の一つの新しい形です。南の民衆の経済的自立に必要な資金を、北の市民が基金に寄附し、それを低利で必要とする団体や地域社会に融資します。また、アジア各地の民衆の経験や知恵を共有する仕組みとして、相互に助け合い、教え合う役割をも果たします。

■参加団体 (五十音順)

アララ渓谷開発財団 (フィリピン)
 アルカイル・ビジネスグループ (パキスタン)
 特定非営利活動法人 APLA (日本)
 “泉湧き出でて大河となる” 研究所 /KSI (東ティモール)
 オルター・トレード・インドネシア社 /ATINA (インドネシア)
 オルター・トレード社 /ATC (フィリピン)
 オルター・トレード財団 /ATFI (フィリピン)
 株式会社オルター・トレード・ジャパン (日本)
 生活協同組合連合会きらり (日本)
 生活協同組合グリーンコープ連合 (日本)
 グリーンコープ生活協同組合おいた (日本)
 グリーンコープ生活協同組合おおさか (日本)
 グリーンコープ生活協同組合おかやま (日本)
 グリーンコープかごしま生活協同組合 (日本)
 グリーンコープ生活協同組合くまもと (日本)
 グリーンコープ生活協同組合さが (日本)
 グリーンコープ生活協同組合 (島根) (日本)
 グリーンコープ生活協同組合とっとり (日本)
 グリーンコープ生活協同組合 (長崎) (日本)

グリーンコープ生活協同組合ひょうご (日本)
 グリーンコープ生活協同組合ひろしま (日本)
 グリーンコープ生活協同組合ふくおか (日本)
 グリーンコープ生活協同組合みやざき (日本)
 グリーンコープやまぐち生活協同組合 (日本)
 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 (日本)
 株式会社大地を守る会 (日本)
 株式会社ドゥレ生協連合会 (韓国)
 新潟県総合生活協同組合 (日本)
 特定非営利活動法人日本消費者連盟 (日本)
 特定非営利活動法人日本ファイバークリサイクル連帯協議会 (パキスタン)
 農村発展のための協同組合 /CORDEV (フィリピン)
 パコス財団 (マレーシア)
 パプア農村コミュニティ発展財団 /YPMD (インドネシア)
 パルシステム生活協同組合連合会 (日本)
 パレスチナ農業開発委員会 /UAWC (パレスチナ)
 パレスチナ農業復興委員会 /PARC (パレスチナ)
 社団法人ハンサリム (韓国)

■融資事業 (2012.3.31 時点)

- ・シイタケの生産・販売パイロット事業 (北部ルソン・フィリピン)
- ・養鶏プロジェクト (東ティモール)
- ・淡水魚の養殖事業 (東ティモール)
- ・オリブオイルをはじめとする農産物の加工施設建設 (パレスチナ)
- ・ナツメヤシ加工場の設備改善 (パレスチナ)
- ・AITNA 従業員組合による日用品共同購入及び小規模貸付事業 (インドネシア)
- ・ATINA 従業員組合によるエコシユリンブ養殖事業 (インドネシア)
- ・砂糖キビ作付資金の貸付事業 (フィリピン)

・・・計 8 事業に対し、30,765,686 円を融資しています。

※ APLA は、CORDEV を APF へ推薦したため、シイタケの生産・販売パイロット事業のフォローを担当しています。

地域再生事業

福島第一原発事故後、二本松有機農業研究会との協働の取組みを通じて、福島における「農を軸にした地域のあり方」を共に考えようとしていました。そのための具体的な取組みとして、2012 年度は「福島百年未来塾」を共催。様々な分野で活躍する講師の話聞くことに加え、その後の交流会では参加者同士で意見交換をする場をつくりました。地元・福島からの人に限らず、他地域からの参加者たちとの交流も深めることとなり、各々の学びの場となりました。2013 年の 2 月には、福島での地域再生の取組みと、ネグロスでの取組みをつなげようと、二本松有機農業研究会を代表して若手 2 名がネグロスを訪問し、KF-RC 研修生などと交流しました。

※「福島百年未来塾」の振り返りと今後については、『APLA レポート No.6』をご覧ください。



福島百年未来塾の様子 (第 6 回佐藤栄作さん講演)

- 第 1 回 (2012 年 4 月 7 日) :
「作物による農地の放射能除染と有機のイネ作り」
NPO 法民間稲作研究所 稲葉光國さん
- 第 2 回 (2012 年 6 月 9 日) :
『ミツバチの羽音と地球の回転』上映&鎌仲ひとみ監督トーク
映像作家 鎌仲ひとみさん
- 第 3 回 (2012 年 7 月 14 日) :
「福島からはじめる日本の未来」
東京大学 児玉龍彦さん、慶應義塾大学 金子勝さん
- 第 4 回 (2012 年 9 月 1 日) :
「地域密着型経済と脱原発の道」
城南信用金庫理事長 吉原毅さん
- 第 5 回 (2012 年 12 月 1 日) :
「困難な時代をどう生きるか～命・食・放射能・絆を考える～」
諏訪中央病院名誉院長・作家 鎌田實さん
- 第 6 回 (2013 年 2 月 2 日) :
「福島県有機農業への道～私の政治理念と自然との共生」
元福島県知事 佐藤栄佐久さん
「原子力災害から食と農の再生を」
福島大学 小山良太さん

広報・出版事業

カカオ DVD とブックレット製作

2012 年度に新しく民衆交易の商品として仲間入りしたインドネシア・パプア州のカカオについて紹介する DVD 『kacao kita』とブックレット『パプア・チョコレートの挑戦』を制作しました。



DVD ジャケット



ブックレット表紙

機関誌ハリーナ (Vol.2.16 号～ 19 号発行)

2012 年 5 月 16 号

【特集】東ティモール 独立から 10 年—社会正義のためにたたかいつづける

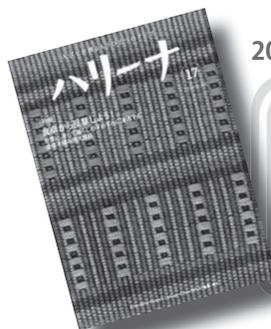
- * 東ティモール・この 10 年を振り返って◎エゴ・レモス
- * 独立から 10 年、今、私たちが感じていること。◎アレクサンドリーナ・デ・ロサ、ジュリオ・マテイラ、ペドロ・デ・オリベイラ



2012 年 8 月 17 号

【特集】食卓から反撃しよう！—世界に、そして暮らしのすみずみに浸透する遺伝子組み換え食品

- * 遺伝子組み換え問題、世界は今◎印鑰智哉
- * 【フィリピン】 科学者と農民の抗議 vs. 遺伝子組み換え作物マニュアル◎イナ アレコ R. シルベリオ
- * 【日本】 忍び寄る遺伝子組み換え食品◎西分千秋



2012 年 11 月 18 号

【特集】エネルギーをわが手に！—もうひとつの電気のために土地を、海を奪われるのはごめんだ

- * エネルギーを自分たちの手に取り戻す—手づくり太陽電池から見えるもの◎桜井 薫
- * 【フィリピン】 原料調達場で起きる土地収奪に無策の日計事業者—フィリピン・パイオエタノール事業◎波多江秀枝
- * 【インドネシア】 日本の LNG 開発で崩壊した「海の民」の暮らし◎佐伯奈津子



2013 年 3 月 19 号

【特集】現代畜産を検証する—どうすれば過剰と不足・肥満と飢餓が併合する食の構造を変えられるか

- * 食糧問題解決の鍵は畜産問題にある◎大野和興
- * 【レポート】 アジアに広がる現代畜産
- * 【レポート】 もうひとつの畜産をめざして



手わたしバナナくらぶニュース 212～217号

特集ラインナップ.....

- 212 新宿区立大久保小学校のフェアトレードカフェに行ってきました (2012年5月発行)
- 213 東ティモール独立10周年を記念して (2012年7月発行)
- 214 遺伝子組み換えがもたらす危険 (2012年9月発行)
- 215 ネグロスのバランゴンバナナ生産者と日本の消費者が交流しました。(2012年11月発行)
- 216 チョコレートの民衆交易が始まります! (2013年1月発行)
- 217 エコシュリンプ生産者と野付植樹協議会が交流しました。(2013年3月発行)



 交流事業

グリーンコープ青少年ネグロス体験ツアー

2012年7月、台風が通過するなかで、高校生11名と現地の若者たち11名で共同生活をしながらワークショップを重ね、一緒に劇を完成させました。言葉が通じなくても友情は生まれることを高校生たちが教えてくれました。今回選ばれたネグロス側の参加者は、KF-RCから4名、パンダノン・バランゴンバナナ生産者協会(PIBFA)から3名、バコロド市内から3名のほか、BGA(バランゴンバナナ生産者協会)の奨学生で現在小学校の先生であるジャーニーさんがファシリテートの手伝いとして参加。特に、KF-RCとパンダノンからの若者たちは、今後とも交流を継続する方向で考えており、地域内の連携を進めていく足がかりとなりました。



ワークショップの様子

バナナ募金の送り先保育園との交流

緊急救援事業として始まったバナナ募金は2012年10月末で開始から1年が経過しました。2012年度は、単にバランゴンバナナを届けるだけでなく、送り先保育園・幼稚園と顔の見える関係をつくることをめざしてきました。その一環として、聖セシリア女子短期大学の先生と学生さんの協力のもと、保育園児でも分かるバナナの教材を製作。2013年1月、南相馬市にある原町聖愛保育園でバナナのワークショップを実施しました。素晴らしい教材のおかげで、子どもたちも先生も楽しみながら、バナナや生産者について学べた様子で、今後も継続していく予定です。



バナナの話を一息懸命聞く園児たち

グリーンコープ組合員 f r o mネグロスツアー・東ティモール

2012年9月、グリーンコープ組合員 f r o mネグロスツアー・東ティモールが開催され、合計8名がコーヒー生産者グループと交流しました。短いスケジュールで長距離を移動するハードなツアーではあったものの、病気やけがなどもなく、実り多い交流ツアーとなりました。APLAが協同してきたコーヒー生産者グループFitun Caetano（フィットウン・カイトノ）で開催された収穫祭への参加、女性同士の交流など、APLA事務局によりハリーナやウェブ上の報告だけでは把握しきれないAPLA/ATJの取り組みの進捗を肌で感じる事ができたという感想を多くいただきました。

「パプア・チョコレートの挑戦～現地パートナーを迎えて」

2012年11月、インドネシア・パプア州よりカカオ事業に取り組む仲間たちが来日。APLAで製作したDVD『kakao kita』を上映し、パプアの2人から現地の状況や課題を聞くと同時に、民衆交易の新しい仲間としてのパプア・チョコレートを披露する会をATJと共同で開催しました。当日は、これまでも民衆交易の商品を使った料理のレシピをつくっていただいている「きまぐれや」の吉田友則シェフに、カカオの様々な使い方を提案していただくなど、完成品を買うだけでなく、人のつながりから自分たちの「食」をつくっていけるような提案も行うことができました。



パプアでカカオ事業の取り組みについて話をする生産者たち

チョコレートづくりワークショップ

2013年1月、パプアから届いた民衆交易カカオ（カカオマスとココアバター）を使用し、「ホンモノの愛を伝える本当の手づくりチョコレート」ワークショップを開催しました。吉田シェフに講師を依頼し、参加者11名と一緒に“つくる人も、もらう人も、そして遠くパプアの森に暮らすカカオの生産者も、みんながうれしいチョコレートづくり”を実施しました。参加者の反応が大変よかったため、こうしたワークショップや出前講座などを今後も積極的に開催していく予定です。



手作りチョコレート、作業中の様子

フェアトレード事業報告

APLA ネットショップ

- 4月 バージンオリーブオイル取り扱い終了。ドリップパックコーヒー販売再開。
- 5月 ATJあぶらブックレット②『民衆交易とフェアトレードのこれからを考える』販売開始。
- 7月 カフェ・ライ・ティモールから「アジアのコーヒー」東ティモールに変更。
- 10月 ATJあぶらブックレット③『パプア・チョコレートの挑戦』販売開始。カフェ・ド・ラフォーレから「アジアのコーヒー」ラオスに変更。「みんなでつくるコーヒー」メキシコ取り扱い終了。
- 11月 コーヒー生豆販売開始。
- 1月 チョコレートの期間限定販売開始。
- 3月 福島県二本松産の綿を使用したオーガニックコットン靴下販売開始。

2012年度（2012年4月～2013年3月）	
ネットショップ	8,320,315円
イベント	701,711円
事務所販売	1,072,693円
手わたしバナナくらぶ	2,241,172円
手わたしエビくらぶ	189,900円
ギフト（夏・冬）	318,933円

各種コーヒー

2011 年度と比べ、ほぼ全種類の売上が上がりました。特に、よりどりセットの注文数が増えています。商品別では、東ティモールコーヒーが一番人気、その他の種類は固定ファンがあり、注文数は安定していました。

マスコバド糖関連商品

価格の値上がりがあったため、セットや箱での注文が増えました。他の商品よりも価格の上がり幅が大きかったかりんとうは、セットや箱注文が減少しています。

ゲランドの塩関連商品

2011 年度より値下がりとなったものの、注文数は大きく増えませんでした。企画を再開した細粒塩容器入り 125g の 3 本セットは、少しずつ注文が入っています。

オリーブオイル

バージンからエキストラバージンに変更となり、好評でした。特に、2012 年 11 月に起きたイスラエルによるガザ攻撃の後には、パレスチナを支援したいという方が多かったのか、注文数が増えました。

バランゴンバナナ

春は店舗からの注文が多かったですが、季節に左右されるため、後半は例年通りの注文数でした。

チョコラ デ パプア (チョコレート)

期間限定販売に加え、在庫の関係で全ての注文に応えることができませんでした。商品に対する反応はよかったので、2013 年度は早めに広報を始め、需要に応えられるようにします。

エコシュリンプ

夏と冬のギフトセットの他に、毎月エコシュリンプをお届けするエビくらぶを 2012 年の 10 月より開始しました。まだ認知度が低いため、2013 年度は広報に力を入れていきたいと思えます。

その他

リタトレーディングの紅茶が人気でした。店舗からの購入もあり、コンスタントに注文があります。

手わたしバナナくらぶ

2012 年度の新規入会者数は 6 人。2011 年度にホームページのリニューアルの際に、バナナくらぶのページもわかりやすくなりましたが、2011 年度と比べ注文数が大きく減少しています。2013 年度は、単発のバナナの注文を、バナナくらぶへの入会へとつなげるような工夫をしたいと思えます。

現在会員数 74 人 (100)

年間出荷件数 (月平均)

20kg	10kg	6kg	3kg
33 件 (41)	142 件 (165)	162 件 (161)	220 件 (265)

※ ()内は前年度集計数

エビくらぶ

2012 年 10 月より開始。価格が高いこともあり会員数は多くありません。来年度は規格の見直しを含め、広報に重点を置いて、会員が増えるよう努めたいと思えます。

現在会員数 6 人

年間出荷件数 (月平均)

A コース	B コース	C コース	サンプル C コース
21 件	3 件	15 件	1 件

緊急支援報告

2012年度は、以下の災害に関する緊急支援を実施しました。

① ネグロス地震被害 (2012年3月2日～6月1日まで) : ¥1,511,050

2012年2月6日、ネグロス島東部近海でM6.9の地震が発生し、ネグロス東州で多数の死傷者、家屋や橋げたの損壊、道路の地割れなど、甚大な被害が出ました。特に、同州ギフルガン市プラナス村では、地震によって大規模な地すべりが発生し、バラゴンバナナ生産者の家族2名を含む20名以上が死亡・行方不明という惨事に見舞われました。

現地パートナーであるオルター・トレード社(ATC)が、避難民の住居や校舎が損壊した小学校への建築資材の提供などの支援活動を実施。APLAでは、ATJと共同で募金を呼びかけました。

② バナナ募金 (2011年11月～)

2011年3月の福島第一原発の事故後、福島県内外へ避難を決める人びとがいる一方、経済的な理由、家庭の事情など様々な要因で、線量が高い地域で生活を送っている人たちもいます。せめて子どもたちには、なるべく放射能汚染が少ない食べものを食べさせたいと願いつつも、手に入れることが難しいという声を受け、2011年11月より、農業を使わずに栽培されているバラゴンバナナを福島の保育園・幼稚園に定期的に送る活動を実施しています。

※2013年11月以降も継続するかどうかについては、状況をみて検討いたします。

募金状況

年度	金額	内訳
2011年	1,448,395円	海外からの支援金 645,512円 国内の募金額 802,883円
2012年	864,000円	国内の募金額 864,000円

発送状況

年度	金額	内訳：バナナ発送重量	内訳：その他
2011年	459,299円	404,999円 (1,162kg)	54,300円 (チラシ作成費、出張費等)
2012年	1,076,755円	991,646円 (2,884kg)	85,109円 (資料発送費、ワークショップ出張費経費等)

※募金金額の最大10%を事務経費として活用。

発送先保育園・幼稚園

発送先保育園・幼稚園	場所	開始時期	発送先保育園・幼稚園	場所	開始時期
1. 白水のぞみ保育園	いわき市	2011年10月より	13. 福島こひつじ幼稚園	福島市	2012年2月より
2. 原町聖愛保育園	南相馬市	2011年11月より	14.(福)児童養護施設 青葉学園	福島市	2012年2月より
3. 同朋幼稚園	二本松市	2011年11月より	15. 福島隣保館保育所	福島市	2012年2月より
4. 仙林寺・寺子屋 ※不定期	伊達市	2011年12月より	16. あすなる保育園	福島市	2012年4月より
5. どんぐり保育園	郡山市	2012年1月より	17. 福島わかば保育園	福島市	2012年4月より
6. ワイズ・プリカールランド キダガ-ゲ-ン	郡山市	2012年1月より	18. 福島市春日保育所	福島市	2012年5月より
7. 福島市 東浜保育所	福島市	2012年1月より	19. 福島敬香保育園	福島市	2012年5月より
8. こじか「子どもの家」	福島市	2012年1月より	20. 福島市渡利保育所	福島市	2012年5月より
9. ひかりの子保育園	福島市	2012年1月より	21. 飯野あおぞら保育所	福島市	2012年5月より
10.(学)福島めばえ幼稚園※2013年3月まで	福島市	2012年2月より	22. 清風幼稚園 ※2013年3月まで	いわき市	2012年5月より
11. こじか保育園 ※2013年3月まで	福島市	2012年2月より	23. こどものいえ そらまめ	福島市	2012年6月より
12.(学)福島わかば幼稚園	福島市	2012年2月より			

■その他

2011年3月の東日本大震災以降、他団体とのネットワークでも活動を進めています。

- 三春花見東京実行委員会：アジア太平洋資料センター (PARC)、日本国際ボランティアセンター (JVC)
- エネルギー勉強会：アジア太平洋資料センター (PARC)、アーユス仏教国際協力ネットワーク、開発教育協議会 (DEAR)、日本国際ボランティアセンター (JVC)、メコン・ウォッチ・ATJ、アーユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) とともに、パプア州から届くカカオを利用した福島支援を準備中。定期的に会合も開き、福島での活動状況などの情報共有を進めています。

<2012 年度の賛同・協賛>

- ・国連地球サミットの本会議場内で「全世界の脱原発」と「大飯再稼働ストップ」を訴えるデモ【賛同】
- ・大間原発の建設断念を強く求める【賛同】
- ・シンガポール交渉にて、米国の「日本の参加問題」発言リーク！日本は TPP 交渉に参加しても、交渉内容に何の影響も与えられない！【賛同】
- ・TPP に断固反対する超党派議員、諸団体、市民運動による「TPP 参加をとめる！院内対話集会」【賛同】

<2012年度の賛同金・会費支払い>

- ・一般社団法人 BMW 技術協会
- ・フォーラム・アソシエ
- ・ピープルズ・プラン研究所
- ・特定非営利活動法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
- ・特定非営利活動法人日本ボランティアセンター (JVC)
- ・特定非営利活動法人日本有機農業研究会
- ・特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会
- ・国際有機農業映画祭
- ・TPP に反対する人々の運動
- ・STOP!!TPP 市民アクション

<投資有価証券保有>

- ・(株) オルター・トレード・ジャパン (ATJ)
- ・(株) 市民電子情報網

< 会員数報告 > 2013 年 3 月 31 日時点

	個人	団体	合計
正会員	103	35	138
賛助会員	123	15	138
合計	226	50	276

< 組織体制 >

理事 : 秋山真兄 (共同代表) 疋田美津子 (共同代表) 村井吉敬 (共同代表) 吉澤真満子 (事務局長)
市橋秀夫 上田誠 大野和興 鹿毛優子 廣瀬康代 堀芳枝 (以上 10 名)

監事 : 近藤康男

評議員 : 安藤丈将 奥万里子 出口雅子 橋本順子 弘田しずえ 前島宗甫 幕田恵美子 箕曲在弘
持井啓吾 (以上 9 名)

名誉顧問 : 前島宗甫

事務局員 : 吉澤真満子 (事務局長) 野川未央 (専従) 赤石優衣 (専従) 大久保ふみ (アルバイト)

現地担当デスク : 大橋成子 (フィリピン)、津留歴子 (インドネシア)

< 総会・理事会・評議員会 >

総会 : 第 5 回総会 (2012 年 5 月 26 日)

理事会 : 第 14 回 (2012 年 9 月 29 日) 第 15 回 (2013 年 2 月 9 日) 第 16 回 (2013 年 4 月 13 日)

評議員会 : 第 9 回 ((2012 年 9 月 29 日) 第 10 回 (2013 年 2 月 9 日)

2012 年度活動一覽

●出店 / 参加イベント
○出版 / 販売関連
■国内活動
□海外活動

4月

- 4 ●「TPPに反対する運動を進めるための円卓会議」
- 7 ●「福島百年未来塾」第1回
- 9-20 □東ティモールへ出張
- 21-22 ●アースデー東京2012
- 25 ●「STOP TPP! 1万人キャンドル集会」
- 27 ●ドキュメンタリー映画「シェーナウの想い～自然エネルギー社会を子どもたちに～」上映 & 「脱原発への道」ツアー報告会

5月

- 手わたしバナナくらぶニュース212号
- ハリーナ vol.2-no.16
- ATJあぶらブックレット②「民衆交易とフェアトレードのこれらを考える」販売開始
- 8-11 □ネグロスへ出張
- 9 □カネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) 理事会
- 12 ●「世界フェアトレード・デー 2012」
- 14 ■二本松有機農業研究会を訪問
- 14 ■エネルギー勉強会
- 19-20 ●東ティモール独立10周年記念フェスタ in Tokyo
- 23-24 ■東ティモールから来日したエゴ・レモスさんが千葉県成田市三里塚を訪問 (同行)
- 26 ■第5回 APLA 総会開催

6月

- 9 ●「福島百年未来塾」第2回
- 13 ■エネルギー勉強会
- 26 ■明治学院大学で授業
- 27 ■アユス仏教国際協力ネットワークの総会出席

7月

- 手わたしバナナくらぶニュース213号
- 2 ■パルシステム埼玉の平和国際委員会・ピース♥インターテマグループが来社
- 4 ■埼玉大学で授業
- 14 ●「福島百年未来塾」第3回
- 18 ■BMW 技術協会・若手幹事会
- 19-23 □ATC、KF-RC、ATJ、APLA 四者協議会 (ラウンドテーブル)
- 26-8/2 □グリーンコープ共同体主催 第16回青少年ネグロス体験ツアー

8月

- ハリーナ vol.2-no.17
- 30 ■BMW 技術協会・若手幹事会

9月

- 手わたしバナナくらぶニュース214号
- 1 ●「福島百年未来塾」第4回
- 2-28 □東ティモールへ出張
- 7-8 ■第5回「BMW 技術協基礎セミナー」
- 13-18 □グリーンコープ組合員from ネグロスツアー・東ティモール

10月

- ATJ あぶらブックレット③「パプア・チョコレートの挑戦」販売開始
- 19 ■和光大学で授業
- 20-21 ●福島県三春町「収穫祭2012」
- 23 ●フォーラム・アソシエ登録講師交流会
- 26-28 □互恵のためのアジア民衆基金 (APF) 第3回会員総会
- 27 ●フォーラム・アソシエの第8回アソシエーション文化祭

11月

- 手わたしバナナくらぶニュース215号
- ハリーナ vol.2-no.18
- 2 ●第3回チョコレート・サミット
- 3 ●「パプアチョコレートの挑戦～現地パートナーを迎えて」
- 5 ●パルシステム埼玉「平和募金団体交流会」
- 9 ■二本松有機農業研究会を訪問
- 16-17 ■第22回一般社団法人BMW 技術全国交流会
- 18 ●土と平和の祭典2012
- 21 ■福島県伊達市を訪問
- 27 ●フォーラム・アソシエ2012年度第2回登録講師交流会

12月

- 2 ●「福島百年未来塾第5回」/ 二本松有機農業研究会の収穫祭
- 5-15 □東ティモールへ出張
- 16 ●国際有機農業映画祭2012
- 25 ■長野県伊那市グリーンファームを訪問
- 27 ■BMW 技術協会・若手幹事会

1月

- 手わたしバナナくらぶニュース216号
- 8 ■福島県南相馬市・原町聖愛保育園(バナナ募金支援)を訪問・バナナのワークショップ開催
- 17-27 □フィリピン・北部ルソン・ネグロス島へ出張
- 22 □APLA、ATJ、ATC、KF-RC 四者協議会 (ラウンドテーブル)
- 29 ●「ホンモノの愛を伝える本当の手作りチョコレート・ワークショップ」

2月

- 2 ●福島百年未来塾第6回
- 2-11 □東ティモールで「農民による自立的・安定的な地域づくりのための協同」のワークショップを開催
- 5 ■学芸大学付属高校で授業
- 5 ●パルシステム埼玉・平和募金贈呈式
- 11-15 □BMW 技術協会主催 カネシゲファーム・ルーラルキャンパス視察ツアー (ネグロス島)
- 16 ●2013パルシステム東京「エコ&ピース day! 「いのちつながる選択を!」3.11を忘れない 脱原発・核のない世界へ」

3月

- 手わたしバナナくらぶニュース217号
- ハリーナ vol.2-no.19
- 6 ■BMW 技術協会・若手幹事会
- 11 ■二本松有機農業研究会訪問
- 15-16 ■第6回「BMW 技術基礎セミナー」
- 29 ■BMW 技術協会・若手幹事会



特定非営利活動法人 APLA 2012 年度事業報告

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-15 サンライズ新宿 3F

☎tel☎ 03-5273-8160 ☎fax☎ 03-5273-8667

✉E-mail☎ info@apla.jp ☎URL☎ http://www.apla.jp

☎表紙写真☎東ティモール・地域づくりに取り組むコーヒー生産者 (Fitun Caetano / フィトゥン・カイトノ)